

# 会 議 録

令和元年10月28日作成

会議名	第4回木更津市民会館整備検討委員会		
開催日	令和元年10月9日(水)	場 所	駅前庁舎8階 会議室1
時 間	午後2時00分～午後4時30分		
出席者	委員：倉田直道委員、伊藤裕夫委員、松井憲太郎委員、石村比呂美委員 宮崎恵子委員、土居和幸委員、地曳文利委員、渡部史朗委員、岩埜伸二委員 事務局：総務部 伊藤次長 総務課) 曾田課長、安田係長、河名主任主事 行革推進室) 重城室長、佐藤室次長 管財課) 勝畑参事兼課長、平本主幹、石田主事 (株)シアターワークショップ 伊藤代表取締役、佐藤氏、古川氏、伊藤氏 【木更津市中規模ホール整備基本計画策定業務受託者】		
議 題	1 市民ワークショップ結果について 2 第3回委員会議事内容の確認について 3 建設候補地について 4 施設配置について 5 施設構成および規模について		
公開・非公開の別	議題1～5            公開		
傍聴者数	3人		
配付資料	○会議次第 ○資料1 市民ワークショップ結果 ○資料2 第3回委員会議事内容の確認 ○資料3 建設候補地について ○資料4 建設候補地の概要 ○資料5 施設配置の検討① ○資料6 施設構成及び規模について		
会議概要	別紙のとおり		

○司会

本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

では、初めに、配布資料のご確認をお願いいたします。

お手元の委員会次第の裏面に配付資料一覧を記載してございます。

【配布資料確認】

なお本日の会議は公開で行います。

会議の傍聴を希望される方がおりますので、ここで、傍聴人の方に入ってください。

【傍聴人入場】

それではただいまから第4回木更津市民会館整備検討委員会を開催させていただきます。

始めに会議の定足数についてご報告させていただきます。

附属機関設置条例第6条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとなっております。

本日、古橋副委員長が都合により欠席されておりますが、全10名中9名のご出席をいただいておりますので、委員会は成立することを報告させていただきます。

なお本日の委員会につきましては、会議録作成のため会議内容を録音させていただきますのであらかじめご了承ください。

また、発言の際は、お手元のマイクのボタンを押し発言後は、もう一度ボタン押してマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

それでは初めに倉田委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【倉田委員長あいさつ】

○司会

それでは早速議事に入りたいと思っております。

附属機関設置条例第6条第1項に、委員長が会議の議長になるとございますので、ここからの議事進行につきましては、倉田委員長にお願いしたいと思います。

なお通常であれば、議長席をお作りして、そちらで議事を進めていただくのですが、会場の都合上、席をお作りすることができませんので、本日は自席にて進行をお願いしたいと思います。

では倉田委員長よろしくお願いいたします。

○倉田委員長

それでは議事を進めさせていただきたいと思っておりますが、議題に入る前に連絡事項ですが発言される前に、挙手をお願いいたします。

本日の議題は5件となっております。

それではまず、議題1.「市民ワークショップ結果について」、事務局よりご説明をお願いします。

○事務局

この後の議事議題の進め方についてですが、議題1.「市民ワークショップ結果について」、議題2.「第3回委員会議事内容の確認について」、議題3.「建設候補地について」、議題4.「施設配置について」をシアターワークショップからまとめてご説明させていただき、そのあと一括で質疑応答を行わせていただきたいと思います。

その後、最後に、議題5.「施設構成及び規模について」を事務局からご説明させていただき、質疑応答を行うという形で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○シアターワークショップ

【資料に基づき議題1.「市民ワークショップ結果について」、議題2.「第3回委員会議事内容の確認について」、議題4.「施設配置について」説明】

○事務局（行政改革推進室）

【資料に基づき議題3.「建設候補地について」説明】

○倉田委員長

ただ今の事務局からの説明につきまして、ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。

○松井委員

これは候補地で、決まっているわけではないですね。

○事務局

公共施設再配置基礎調査業務の中間報告を受け、決定ではありませんが、市の方針として有力な候補地として考えております。

○松井委員

同じテーマの会議が、次回も含めて2度ですよ。

今日は、大局的なところからいろいろお話を伺いますが、トップページの市全域ではない、駅周辺の配置計画で、ここ以外の中から合併されたような市域も含めてなのですが、市民会館が予定されている場所について伺います。

木更津市といえば、昔から商業地として港が栄え、今までいろいろな歴史があったと思います。

この位置が、歴史的に見て、或いは市の現在の全体像から見て、象徴的な位置付けにあるということがここに市民会館を持ってくるといふ根拠のようですが。

先ほど話を聞いていて、公共施設の再配置ということで、今ある施設の配置を考えれば、合理的にはここが適切であるというような形で出され、そういう現時点で輪切りにしたような形で、機能ということで候補地になったということも選択の理由ではないかと思われ、私は外部の人間なので、今示されても、その場所がどういふ場所かというイメージが全然わかりませんので、少し理解させてください。

歴史的にその地域のいろいろな出来事があった中でということからか、或いは現在の街の中で、ここが象徴的な意味でも現実的な意味でも果たすべき役割があるためからかどちらなのか少し伺いできればと思います。

○事務局

どちらかと言いますと、後者のほうで選定した経緯がかなり強くあります。

というのは、木更津市だけではないですけど、木更津市の人口は若干伸びていますが、今後はやはり少子高齢化が進んでいくため、コンパクトシティを目指さなければならないというところで、中心市街地で人が集まる場所を設定し、その中で、市民サービスや効率的な観点から選びました。

また、市の所有地が限られているという制約もございましたので、その中で市のいろいろな基本計画や構想などを勘案した中で、市有地であるということもかなり大きなウエイトを占めておりますが、現状でここを選んだところです。

申し訳ありませんが、市の歴史的な観点などを考えたような計画にはなっておりません。

以上でございます。

○松井委員

候補地を選択された理由というのはよくわかるのですが、質問の趣旨は、ちょっとそれと違うところもありまして、結果的にここはいろいろな理由で、現状の中で選ばれたということは理解しているのですが、この選ばれた場所が、先ほど言ったように、行政の方々が持たれている歴史的な視点とか、或いは現状の街の中で、先ほど中心市街地というようなお話も含めてなんですけど、少しその街の大きなランドプランみたいな中で、ここが果たし得るような、或いはシンボリックな役割として持っているようなものが何かあるのだろうか、というようなご発想があれば聞かせていただきたいと思っております。

このようなことを言っているのは、この前も紹介させていただいたように富士見市の中で、きらりふじみという文化会館が建っている場所が選ばれたというのが、今ご説明があったように行政的な観点から見てここが適切だというような理由でしたので。

よそ者の僕が後から入って、その場所で実際に仕事してみたときに、かつて、三つの村だった境界線上に、そこがちょうど位置しているとか、いろんな歴史的な位置付け、もう一つ言えば、縄文時代には海だったようなところに、その文化会館が建ってしまっていて、その周りは農地だったのですが、ものすごく水が出るところなのです。なので、農地としては非常に生産性が低い。

その生産性が低い農地を村の人たちが一生懸命自分たちの力で、或いは行政の人たちも手を貸しながら、生産性の高い農地に改良していったという歴史がありまして、そういうような地域に文化会館が建っているというようなことがあり、現在、この前説明したように、農村地帯が人々と一緒に事業展開して、街の新しい活動を喚起しようというのは、役割を今はできているわけではないのですが、

文化会館が勤めているというようなことがあるので、非常に物理的にここというような形で選ばれていると思うのですが、その物理的な施設が、まず全体の構図で、或いは時間軸の中で、委員長がおっしゃっているような、たまり場というか、そういうような機能を果たすために何かモチベーションといいますか、なにか動機づけみたいなものを、この空間からイメージすることができないかなというような趣旨で教えて欲しいという形で言っています。

○倉田委員長

いかがですか。はい、どうぞお願いいたします。

○事務局

すいませんちょっと繰り返しの部分になってしまうかもしれないのですが、委員おっしゃる歴史的なところでは、少し思い浮かびませんが、先ほど説明させていただいたように、ここはもともと埋め立て地であった箇所でございます。

木更津は海と一緒に発展してきたというようなご紹介もさせていただいている中で、今ちょうどパークベイプロジェクトというような港周辺を活性化しよう、人のにぎわいづくりを起そうという取り組みも進んでいる中で、港、海というようなひとづくりで考えますと、港、海の周辺に人の交流が生まれればというようなイメージは持っております。

○松井委員

初回の委員会からオーガニックなまちづくりというような条例があるというふうに伺っていて、この計画は、そこに基本の軸足を置いたものであるというようなお話でしたので、非常にインパクトを受けました。

ただ逆に、話がだんだん具体的になってきた時に、その基本の軸足の部分と、この今造ろうとしているものの関係性があまりよく見えないようなところがあり、前2回は、その建物のあり様と基本の軸足というのがどう繋がっているのかなどを考えようという形でいろいろ皆さんと一緒に議論したと思うのですが。

その中で、市全体、或いは市外も含め、いろいろなものが循環するというような話が計画の中に入り、それで今、港というお話もありましたが、ここに市民会館が建つことによって、条例にあるようなものや人が循環していくような発想というのは、どこかで具現化すべきだろうなというふうに思いましたので、先ほどの説明の中で港の近くにあつてというようなところがあり、周囲の環境も、道路の条件も含めて、いろいろなものが集まったり発信されたりする場所に適切に立地するなどのような考えがあれば聞きたいと思いました。

やはり、どうも未だに先ほどの基本の軸足の部分と、この候補地の選択などが、まずちょっと結びついていないよう形で結びついていないところがあるので、できれば何か、今後のことを考えると、そこら辺の結びつきみたいなものも少し具体的な言葉であったりイメージであったりというようなものにしてほしいかなというふうに感じました。

○土居委員

この敷地は、これまでもご案内をさせていただいておりますとおり旧庁舎の敷地、行政機能の中心だった地区でございます。

そして、今、駅前と朝日の方に庁舎がいつている現状や、パークベイプロジェクトや市場の再整備などがあり、この旧庁舎の敷地のところまでが一体で整備をされようとしているところです。

その中で、こちらを文教ゾーンとして位置付け、回遊性のある場所にしたいと思っております。

今の市民会館がある場所については、ウェルネスゾーンとして健康増進を図ろうという地区を指定した上で、市の活性化を図ろうという位置付けにしております。

この街中周辺、駅周辺地区での市の施設の再配置という、限られた土地の中での選択というふうにはならざるを得ないのですが、そういう位置付けで、この場所を文教ゾーンとして位置づけようというコンセプトで、公共施設再配置基礎調査の中間結果が出ているところでございます。

○伊藤委員

私もよそ者ですからちょっとわからないのですが、基本的に旧市庁舎の跡地であり、現在の市民会館の斜め向かいという形ですと、今まで使っていた方にとってみれば、結構馴染みがあり、私は悪くはないのではないかと思います。

ただ、市全体の文化振興を考えたときに、例えば他の新しくできる市庁舎の問題、図書館の問題、公民館の問題、こういったものをどういう形で有機的に繋いでいくのかというのは、これから先の課題だと思いますし、特に利用される方の多分8割くらいは自家用車だろうと思うのですが、中高生や高齢者などの自家用車で来ることができない人達にとってはどうなのでしょう。

中高生を考えていきますと、多分、これも想像なので間違いかもしれませんが、金田地区の方でファミリー層が増えているわけですので、その辺の子が今は小中学生かもしれませんが、5年後あたりになってくると、高校生大学生になり、当然増えてくるだろうと思います。

それから高齢者でいうと、多分山の方といいますか、東側の駅を挟んだ向こうに住んでいる方が多いと思いますので、こういった人達がここをどういう形で利用するのかということのをちょっと考えてみると、少し港に寄り過ぎてているのが、若干気になるところでもあるなという気がしています。

ただ、これも、交通網の問題も含めて、移動手段をどういうふうに考えていくかという形で、ある程度解決できるかもしれませんが、そういった住んでいる人たちの繋がりみたいなものを考えていくことが重要ではないかなと思っています。

特に一番気になったのが金田地区の方からのバスがここに上手く来ているのかどうか。

中学生あたりですと親と一緒に来るとは思うのですが、高校生ですと自分たちだけで利用しようする人たちもいます。

今の文化施設に関して言うと、いわゆる若い人たち、子供には結構対策を練ってくるのですが、中学生高校生大学生というのがほとんど利用してないことが、これは全国的にどこもそうなのですが、大きな問題になっていて、特に高校生あたりがサークル活動などを含めて、学校行事以外に利用するような機会というものを想定しておく必要があるのではないかなという気がしています。

この辺、単に立地だけではなくて、全体的な再配置の中で人々の移動の仕方が重要になってきますし、商業施設が近いのでいろいろ検討できると思います。しかし、以前少しこの辺りを歩いてみたりしたのですが、やはり結構寂れていますよね。

シャッター街が結構多くあり、飲み屋街もどちらかというところとあまりいい雰囲気じゃないという印象を持っています。

そういう意味では文化施設と駅、公民館、或いは今度整備されていく市庁舎等との間のゾーンが、まだ相当民間との協力を得なければならないと思います。何らかの文化的な香りがするような仕組みを作っていくとかなどのマクロ的なビジョンとまちづくりのビジョンというものを、ぜひ考えていただきたいと思います。

それが前提になるのであれば、この場所で私は構わないのではないかなと思っています。

#### ○渡部委員

今のお話に関連しますが、先ほどからパークベイプロジェクトという話が出ておりますが、ちょうど木更津駅からまっすぐ出たところの港周辺に公園があり、そこを今、PFIによる民間活力を導入して整備しようとしております。

また、それから少し南に下がったところの旧庁舎の上のところ市場があるのですが、その再整備もあります。

そして、今、旧庁舎跡地にホールを予定しているということになります。

体育館も含め、駅から約1キロ圏内にあるところで、今は交通手段としては、通り過ぎるような一般のバスしかありませんが、将来的には循環バスなどの各施設を結ぶような新しいモビリティを考えたいというふうに思っています。

そして、富士見通りという駅からまっすぐの寂れた通りについても、今再整備の計画を立てており、国交省が推薦しておりますウォークャブル、歩いて暮らせるまちを实践できるように歩道整備などを行いながら、新しいモビリティで1キロ圏内の公共施設を結ぶという交通を考えていけば、今の中規模ホールの施設配置としてはいい場所になるのかなという考えで進めていきたいと思っています。

#### ○伊藤委員

そのような形で整備されていけばいいのではないかなと思いますが、ちょっと思いつきですが、この写真を見て、水路を使えないのかなという気がしました。

木更津は、海があって川が流れており、駅からちょっと歩けば水路に出られますから、そこから船

に乗って行く、と申しますのは劇場など、例えば江戸時代の歌舞伎小屋等々というのは全部舟に乗っていくというような部分が結構多かったわけです。

そういう意味で、新しい文化施設の特徴を産んでいく、或いは魅力をつくるためには、何かそういったようなことも含めて考えたらどうかと思います。これは単なる思いつきですが。

そういう、うまく地理を利用した形で、今までの歴史的な経緯もあるかどうか分かりませんが、むしろこれから歴史をつくれればいいと思いますので、ぜひ、ちょっと河川も考慮願いたいなと思います。

○松井委員

今お話に出たことで幾つか教えて欲しいことがあるのですが、市場の再整備というのが、計画としてどのようなものでいつやられるのか。

また、駅からの道を整備するようなお話がありましたが、もし仮にその駅から徒歩ないしは自転車でここに来るとしたら、道筋としてはどういうものになるのか。

それと、市場との間に水路がありますが、市場が整備されたとき、市場から市民会館へのアクセスというのは、仮にそれを連動させようとした場合に、どのようなアクセスになるのかということがもしわかりましたら。

○事務局

具体的な計画については、まだなかなか示せるような状況ではありませんが、そのような構想がある、そのような考え方があるということでお話をさせていただいております。

全くないわけではありませんし、今後、課題点を整理した上で、またいろいろなところに出していく形になっておりますので、今日のところはその旨ご理解いただきたいと思います。

○渡部委員

富士見通りにつきましては、再整備として、アーケードを取って無電柱化をします。

あとは、その歩道の形態につきましては、これからの地元の皆さんの意見を聞きながら、画一的な無電柱化の方法ではなくて、なるべく歩くスペースとか、ポケットパークみたいな、そういったものを作っていけたらと考えております。

それから、公園までは今の整備でやるのですが、それ以降の計画につきましては、今おっしゃられたように市場の両横には水路がありますので、そこへのアクセス方法は、これから検討を進めていくという状況でございます。

○土居委員

委員ご指摘の通り、パークベイの港のところから、旧庁舎跡地まで水路が二つあります。

そこについては、市場等の整備も含めた連動性を今検討しているところです。

回遊がうまくできるように、それぞれの施設に立ち寄れるように、今計画をしているような状況です。

○地曳委員

市民の交流の場として、今、駅前にみらいラボという市民活動支援センターがあり、そこを新しい中規模ホールの中に入れて欲しいということは、何回か発言しているのですが、みらいラボのもう一つの機能として、高校生や中学生の学習の場として解放しております。

毎日、市内の五つある高校の生徒さん達が、放課後の学習の場として活用されているという実態もありますので、この中規模ホールが、そういった高校生達がバスやレンタサイクルなど立ち寄れるような施設になればと期待しているところでございます。

○松井委員

みらいラボに来られている中高生は、具体的にどこの中学校、高校の人達なのですか。

○地曳委員

市内の県立高校 2 校、私立高校 3 校、そして国立の工業専門学校 1 校、合わせて 6 校の高校生です。

その皆さんがみらいラボに自然発生的に集まって、市民活動団体が活動している時間以外で、自習や自分たちのサークルの活動の場所として活用しております。

また、駅周辺にかなりの数の予備校がありますので、そういった方も授業の時間調整などを兼ねて、その場所で学習をしているというふう聞いております。

○松井委員

今、予備校の話も出ましたが、駅周辺の立地という、利便性みたいなもので、来られているのであれば、今回は駅からかなり離れており、あえていくというような形になると思うのですが、駅周辺ではなくても、立地として機能するのかどうかという辺りの見通しはいかがですか。

○地曳委員

徒歩で20分ということですから、自転車であれば、5分程度で来られるのかなと思います。

また駅から路線バスも通っているところでもありますので、カフェなどの時間を上手く費やせるような空間があり、高校生たちに駅前のみらいラボに変わる施設というような誘導をしていけば、来てくれるのではないかなというふうに期待しているところです。

○石村委員

こういった建設用地を確保するときには、やはり、まず市の所有地というのを第一に考えることになるのでしょうか。

別にここがどうというわけではないのですが、新たな土地を求めるということが、構想の中の一つに入っているのでしょうか。

それから、今までの旧庁舎の跡には、たくさんの杭が埋まっているという話がありましたが、そういったものを撤去し、そこに自由に建設をしていくことと、新たな土地を求めていくということには、予算的にかなりの差があるのでしょうか。

ちょっと教えていただければと思います。

○事務局

建設候補地については、今ある施設、土地を有効活用するというのが基本的な考え方です。

ですので、新たな土地を購入してという事業は、なかなか難しい状況です。

それと、先ほどのご説明の中でも、今ある敷地で、杭の方を何も構わなくても、ある程度の規模のものが建つというなお話をさせていただきました。

実際に配置、計画をした中では、そういったのも撤去しなければならないのかもしれないですが、十分に敷地が確保されておりますので、無理に杭を撤去してまで、そこに収めるということまでは考えておりません。できるだけ土地をうまく有効活用し、事業費をかけないように、今後いろいろ検討していかなければならないというふうに考えております。

○倉田委員長

ちょっと私も一言、意見を述べさせていただきたいと思いますが、先ほどから松井委員、伊藤委員がおっしゃっていることというのは、非常に的を射ているのかなというふうに思っています。

それを受けて、私がちょっと感じましたのは、今回の旧庁舎跡地を建設候補地にとというのは、基本的には中心市街地の一部であるという位置付けとして考えていいわけですね。

それと同時に、やはり木更津市というのが、港を抱えた都市であるというイメージも一つあるわけですので、そういう意味で、ウォーターフロントにこういう新しい施設が立地するというのは、それはそれであるのかなというふうに思います。

ただ一方で、ここに立地するのであれば、単にその点的にこの場所を整備するというよりは、先ほどから話が出ていましたように、ウォーターフロント全体を新しい木更津市における交流拠点という位置付けにし、非常に魅力のある場所に再生していくというような展望が必要なんじゃないかなと思います。

その中にこの新しい施設を位置づけることによって、その施設も生きてくるでしょうし、また施設の存在が、その場所の価値にも貢献することになるのではないかなというふうに思っています。

そういう意味では、木更津駅からのアクセスということもありますが、それも含めて、ウォーターフロントをゾーンとして考え、マスタープラン的などの中で、この施設を位置づけるということが非常に大事ではないかなというふうに思います。

この施設だけで交流拠点という役割を担うというのはなかなか大変なので、木更津が港を抱えた都市であるだけに、この魅力をいかに生かして特徴のあるゾーンを作るかということが非常に大事ではないかと思います。

その視点がまちづくりにおいても大事ですし、市街地の活性化という点でも非常に大事ではない

かなというふうに思っていますので、少しそういう視点も踏まえて、今回の建設候補地に市民会館を建てる計画を進める必要があるのではないかなというふうに思います。

先ほどちょっと話がありましたが、地図を見ると、建設候補地と市場などの水辺で歩行が分断されてしまうような感じもありますので、ウォーターフロントとして全体を公園的に整備し、その中に、新しい市民会館があるというような形になっていくと、ここが、いろいろな意味で交流拠点にもなるでしょうし、観光的にも魅力がある場所になるのではないかと思います。

そこに至る場所、アクセス条件、単に距離だけの話ではなくて、そこに至る沿道がどういう状況かということも、そこを利用する人にとって重要だと思いますので、そういうことも含めて、少し大きなマスタープランというものを持った上で、ここを立地として進めていくということがいいのかなと私は感じました。

また、アクセスが当然問題になるのですが、現状は、今、どうしても木更津の場合、車社会でしょうから、車に依存した人の異動というのが前提になるとと思いますが、今、世の中の的には、また世界的にもモビリティ革命ということを言われている時代であり、おそらく自家用車の利用というのはどんどん減っていく状況になるだろうと思います。

一方で、より使い勝手のいい公共交通と自家用の中間的な移動手段の組み合わせで、非常に快適なモビリティが保証されるような、社会になってくるのではないかなということが言われています。

そういう意味では、これからの時代は、アクセスについても新しい時代のモビリティというものとワンセットで考えていくことが必要ではないかなと思い、先ほどお話があったように、高齢者や若者などのいわゆる交通弱者、移動弱者と言われる人たちが、どんどん増えてくることも想定されますので、この敷地に対しても公共交通だけのアクセスというだけではなくて、そういう視点も持って、このアクセスを考えるということが必要かなというふうに思います。

この敷地をどうやってというより、逆にこの立地を生かすというという視点を持ってやっていくのがいいのではないかと思います。

あと一つ、ちょっと気がかりなことがあって、やはり水辺に立地するということで、災害に対しての対応というのがどうかということで、これらは建築レベルで解決できる部分もあると思いますが。

というのは、たまたま私自身が、地方災害の特別委員会に加わっており、必ずしも災害の専門家ではないのですが、やはりいろいろなところで公共施設の計画を手伝っております。

その関係で、やはり災害対応というのをどういうふうにこれから考えていけばいいかということも議論しているところなのですが、特に最近の気候災害というのは、これまでの想定を遥かに超えた形で起きているため、現実には、つい最近の台風の時にもありましたが、特に水害という点を十分に配慮していかないとまずいかなと思います。

先ほど2.7mというような想定がありましたが、やはり現実に起きている災害というのは、そういった想定を超えたところで起きていて、どこまでそれに対して備えておけばいいかというのが結構大きな課題になってきていますので、現状のハザードマップだけに頼るのではなくて、もう少し、それを超えた災害もあるだろうということを想定して、この敷地も考えていかないといけないのではないかなというふうに思っています。

○伊藤委員

先ほど述べたことと繰り返しになる場所もあるのですが、第2回の委員会の時に、木更津の人口構成などの説明を受けたのですが、その時から漠然と感じているのは、人口が増えている場所である金田地域の人達というのは、ある面、東京湾横断道路で、都心部のほうに行く傾向が多い、またそっちに関わった方が多いので、木更津の市内の方にどれぐらい来ているのかなという気がしています。

イオンモールがあるので、ここに買い物に来ているのかなという気がしないわけでもないのですが、多分イオンモールは袖ヶ浦の方にもあるだろうと思いますので、こちらの方にはなかなか来ないのではないかと。

その時に、これからの文化施設というのは、できれば30年間、50年間の将来予測をもとに考えていかないといけないのではと思います。

人口が減っていく社会においては、造ったものが全部荷物になっていくというのは、今一番大きな問題で、5年間10年間はいいですが、20年後には人口がずっと減って行って、使用者がいなくなっ



てくる状況も考えられます。

木更津の場合には、現在、都心部からの人口が増えていますが、この人たちに、20年後、東京の方に行かなくなり、木更津市内で楽しむというような習慣を早く作るということが、単に文化の問題ではなくて、木更津市という街の生き残りのためには、かなり大きな問題ではないかと思っています。

そういう意味でも、文化施設が、木更津の中心市街地の魅力を作るためのコアにならなきゃいけないと思います。

先ほど委員長がおっしゃったように、ウォーターフロントというものをかなり意識して、別に東京側の人を呼ぶ必要は全くないのですが、金田地区などに住んでいる人たちを呼べるようなちょっとかっこいい場所に、そしてウィークデーは東京に行っている人にも、週末は市内で楽しめるような場所にしないと、多分、20年後には、木更津の街は多分悲惨なことになっているのではないかなという気がします。

金田地区などに住んでいる人たちも、将来、都心部に帰っちゃうということも起こり得るかもしれないので、そうじゃないようなまちづくりのコアになるように、多少お金がかかっても、やらないとまずいのではないかなと思います。

○倉田委員長

今の伊藤委員からの話に関連してですが、先ほどコンパクトシティという話があり、おそらく立地適正化計画も立てて、いろいろお考えになっているだろうと思うのですが、そうしたときに、居住誘導地区というような考え方もある程度の整合を取って、こういう新しい公共施設の立地などを意識していく必要があるかなというふうに思いました。

それと、先ほど言い忘れたのですが、やはり、このウォーターフロントの利用の仕方によって、木更津らしいライフスタイルをここで見せるというような場所になるのではないかなというふうに思いますので、少しそのようなビジョンを持った上で、本当に木更津に住んでよかったなというような場所になるために、このウォーターフロントをどういうふうに利用するかというようなことも含めて、今回のこの公共施設の立地を考えられるといいのではないかなということをやちょっと感じました。

○事務局

皆様のご意見をいただいた中で、またいろいろな会議で生かせるように、関係課と協議をしたいと思っております。

具体的には、先ほどから出ている中心市街地の活性化などの計画が、今、検討されていますので、また機会があればご説明させていただくようにしたいと思っております。

○松井委員

ウォーターフロントをどのように有効活用するかのお話がありましたが、この委員会というのは来年度までですよ、確か。

こちらの委員会から、先ほどおっしゃったような計画を検討しているところに向けて何か少しアイデアを出すとか、或いは逆に、こちらが具体的に問われるかということもあり得るのでしょうか。

○事務局

今回諮問をさせていただいている内容ですが、別の場所で検討させていただいている候補地を除いて、施設の導入機能、施設の計画、管理、運営などについてご意見等をいただくこととさせていただいておりますので、それ以外の踏み切った意見などは時間的な余裕がなかなかありませんので、いろいろな意見を踏まえた中で、関係課にはお話をさせていただきたいと思っております。

また、委員の任期につきましては来年度もありますが、今年度末をもって、一応答申をいただきたいというようにお話をさせていただいておりますので、事務局といたしましては、今年度中に計画をまとめたというように考えであります。

○倉田委員長

この委員会で議論できることは限られていると思いますが、やはり、結果としてこの立地が適正であるような形で、周辺も考えていただくというのがいいのではないかと。

そのためには、多分、庁内でいろいろ検討されている計画や構想があると思いますので、それをもう少し戦略的に、特にウォーターフロントについては、それをうまく整合させ、相乗的な効果を生むよ

うな形で計画を進めていただき、ここで非常によかったなということになるようにして欲しいと思います。

では、次の議題の説明をお願いいたします。

○シアターワークショップ

【資料に基づき議題5.「施設構成及び規模について」説明】

○伊藤委員

今の説明については、特に問題ないと思っていますが、ただメインホールに関して言うと、稼働日数が本当にあるのかなという感じはします。

むしろ多目的ホールの方が、様々な形で使われていくのではないかという気がしています。

私自身としては、創造活動部門というものを、やはり強化して欲しいし、多分今後のことを考えると、もうちょっとここに面白い工夫をしたほうがいいのではないかなという気がしています。

例えばバンド等の練習だけではなくて、きちんとした録音ができることや、映像の編集室を作るなどのように、これから先の時代に向け、特に若い人たちに使って欲しいような設備というものを強化していくことも必要だと思います。

また、地域で文化活動をされている方たちにとっては、単にここが発表や練習だけではなくて、例えば劇団などであれば、道具の保管場所も欲しいと思います。

その時に、先ほどの説明を伺って、これは利用できるのではないかと思ったのが備蓄庫です。

せっかくこれがあるのだったら、館の外であっても構わないので、綺麗にして、道具などを安く保管してあげられるようにできればと思います。

そういった形で、ここに来ないと自分たちの活動もできないというようにしていくことも結構重要ではないかと思いますので、備蓄倉庫をうまく活用するといいいのかなと感じました。

車庫までついているので最高だと思います。

それから、そういった形で来る人達に対し、交流するための仕掛けが必要になってきます。

シアターワークショップさんをご承知だと思いますが、仙台の何とかボックスには、交流させる仕掛けがあり、そのためのスタッフを配置しています。

そういうやり方というものも必要になってくると思いますので、積極的に新しい使い方をイメージさせたり、或いはそれを促進させるための設備、人材などの側面を考えたりするにあたって、創造交流施設がちょっと今のアイデアでは陳腐だなという気が正直いたします。

もっと考えていいのではないのかなという気がしました。

○土居委員

教えていただきたいのですが、ホールを稼働式のイスにした時に、多目的ホールが必要でしょうか。可動式にして平たくすれば、多目的ホールの役割を果たすと思いますので。もともと用途が違うので、本当はあればいいものなのではないでしょうか。

300㎡の多目的ホールが、本当に必要なのかなというようなことを考えるのですが、その辺を教えてください。

○伊藤委員

この辺もシアターワークショップさんの方が詳しいと思うのですが、基本的に700席ある中規模ホールを多目的化した場合には、利用料金が高くなります。

300席の多目的ホールの利用料金の方が比較的安いので、その方が利用しやすいです。

多分市民が使う場合に、そんなに大きなスペースは必要ではない方が使い勝手がいいだろうと思います。

この中規模ホールは、多目的な使い方をそこまで考える必要はないのではないかと思います。

多目的ホールとして使えるようにお金をかけるのではなくて、市民たちが手ごろな値段でいろんな形で使えるような工夫をした方がいいのかなという感じはしています。

○土居委員

そうすると、多目的ホールがあれば、固定式でいいという考え方になるのですかね。

ありがとうございます。

○宮崎委員

私も多目的ホールが、イスが稼動式であれば、ダンスパーティーやお茶会などに活用でき、大規模ではなければ、利用料金も安くなると思いますので、ぜひ作っていただきたいです。

そして、中規模ホールは、きっちりした音楽にも踊りにも使えるホールで、音響設備や照明設備などを整えたものを作っていただきたいと思います。

○倉田委員長

松井委員いかがですか。ご経験的に。

○松井委員

交流部門については、前から質問ばかりして恐縮なのですが、ちょっとイメージが沸きません。

実際にこのように使われているみたいな実例を見せてもらって、少しは理解が深まっているところですが、管理的な側面からは、例えば、メインのホール利用があり、そういうホールに向かってかなり大掛かりになった催しで、お客さんがたくさんいらっしゃる場合、そのホールのために用意されているホワイエ、ロビーなどがいっぱいになってしまうし、そういうところと交流スペースみたいなものがかなりリンクしていると、限定された利用区間からはみ出すような利用はやめてくれみたいな発想になってしまいます。そのスペースの運用などを含めて、今おっしゃっている、或いは提案なさっている交流スペースというのがどう機能するのかというのも少しイメージできるような形で説明していただけたらと思います。

○シアターワークショップ

このプランでは、大ホールやその中央のホワイエは、入ってすぐ分けてしまうので、この辺を利用する人に大きな影響というのはそれほどないと思います。

基本的には共用部門に人がたくさんいることで、大ホールや中ホールに大きな影響が及ぶことはないようになっています。

○松井委員

逆に言うと大ホールや中ホールと交流スペースが分離しているということですか。

○シアターワークショップ

分離しているわけではなく、ホワイエなどには受付などを置かなくてはならないところなので、完全には分けないようになっています。

中ホールを使ってない時は、一緒に使えるようしています。

○松井委員

ちょっとお話が食い違っちゃっているようで心配ですが、この前、見ていただいたような、キラリふじみのハードの使い方というのは、メインホールやマルチホールの部分と、それ以外のスペースがべったりと繋がっちゃっているような状態なのですが、であるからこそ、そのマルチホールの中でやっているイベント等とそれ以外の共用スペースが一体化してイベントができるものです。

ただ、その反面、マルチホールやメインホールで独立したイベントをやろうとすると、共用スペースが他のイベントのために使えなくなっているというのが現状で、これですと共用スペース部門で何かやっているということかというと、そこがある種、一体化して使えるのかもしれないけど、逆にそのホール部分との連動性というのはあまりないかなと思います。

○シアターワークショップ

そこは分けることができるようになっていますが、一体的に使うというような使い方もできるようにしております。

○倉田委員長

ちょっと今伺っていて、今の段階ですべき議論とおそらく設計段階でいろいろ工夫できる話というのが少し一緒になっているような気がします。

そういうことから言うと、あくまでも今、この場所では、いわゆる使い勝手の側から、どういう使い方ができるかということと、こういう使い方もできるようにした方がいいのではないかと、うあたりの話をしていただいた方がいいかなと思います。

その結果、どういうふうにそれを解決するか、或いはそれに対してどういう空間の作り方をするかを設計の段階でいくつかの条件を整理しておけばいい話だと思います。

そういう意味では、この時点では、使い方としてこういうことが大事ではないか、こういう使い方

ができたらいいというようなお話をしていただく方がいいのかなという気がします。

○宮崎委員

市役所と中規模ホールを複合施設にするかしないかみたいな話はどうなっているのですか。

○事務局

資料の5ページに示させていただいておりますが、公共施設再配置の基礎調査においては、市役所の機能については、朝日周辺と駅周辺が望ましいというように、候補地を示させていただいておりますので、今の段階では旧庁舎の占めている文教ゾーンという形で中規模ホールを整理させていただいております。

○宮崎委員

つまり、市役所は新しく作らない。

今のこの状況の役所でずっといくということとなっておりますが、私はホールとの複合施設にするのかなと思っていたので、これではビルにしないでどうやって作るのかと思ったものですから。

○事務局

ここの施設を使うとかではなく、いろいろな民間の施設等と今後協議しながら、駅周辺と朝日周辺に機能を分散して、業務の方をしていきます。どこの施設を使用するかというのは、今後、いろいろな相手方の事業者と協議をしていくような状況になると思います。

○土居委員

中規模ホールのところには、市役所はいかないですかという質問ですよ。

旧庁舎跡地にはいきません。

ただ、その他のところに書いてあります図書スペースなどの複合施設については、この中で、そういったものがあればいいなどというご議論、ご提案をいただければ、それに向けて進めていくというお話になろうかと思います。

市民交流スペースや図書館などが複合施設として必要だということのご意見をいただければという整理になると思います。行政機能はいきません。

○宮崎委員

わかりました。

今の文京にある図書館が新しく作るビルの中に入るかもしれないではなくて、新たに図書館をその中に設置する。

○土居委員

機能として必要なのかどうかご議論いただければいいと思います。

○倉田委員長

よろしいですか。

おそらくまだ次回も少しそのような議論をさせていただくことにはなると思いますが、私自身も、複合化というのは大事ではないかなと考えており、いろいろなホールを中心とした施設を見てみると、やはりホールの場合、非常に特殊な施設で、それが本当にこの催しものがあるときだけ人は来るけれどそれ以外のときは、もうほとんど人がいないというような施設になってしまうので、それは今回、望む施設ではないだろうというふうには思っています。

その時にたまたま私の経験した事例ですが、茅野市民館の場合もそういう議論をしていく中で、周辺のいろいろな公共施設を見てみると、図書館は、特に最近の図書館は老若男女、世代を問わず、それも平日も一番市民が利用している施設でありました。

そういうある意味、先ほどちょっとお話がありました、きっかけになるような施設をそこに持つてくることで、日常的に人々が立ち寄れる施設になるのではないかという議論で、後から図書機能が加わったということがございました。

○松井委員

16ページに施設機能間の連携という箇所がありますが、これは、初期に出していただいたものとあまり変化がないですよ。

この画で書かれているイメージが結構強烈にあり、その交流機能というのが結構スペース的にも小さく、多目的ホールとか創造活動部門とをつなぐような形になっていません。

なので、ちょっとそのイメージもあると思うのですが、私の実体験でいいますと、ヨーロッパの劇場でも、実際に今ここで議論しているような、交流やたまり場になるような具体的な交流スペースとかというのが、特に伝統的なものになるほどありません。

ただ、実際にはその劇場というものが、ロビーとか、これまでもちょっと話に出ているレストランであるとかバーとかも含めて、市民の社交の場になっているという現実が一方であります。

例えば劇場の前に広い広場があって、そこがいろいろな催しができる場所になっていたりしています。美術館でも例えばポンピドール前の広場とかにも、そういうものがあります。

そういうヨーロッパがいいというわけではないのですが、公共空間をどう作るかという考え方が、日本とヨーロッパにおいては、やはり伝統的にちょっと違うというところがあり、キラリふじみにしても、世田谷パブリックシアターにしても、公共的に開いているというような空間としては、あまりうまく作れてないというところがあります。

それで、考え方の問題として、この中規模ホールの交流スペースとか、創造活動部門とかいうふうに言っているところなのですが、それが実際に、いろんな人達が集まって、たまり場になって、そこで具体的に何か出会いがあるというような、公共的な開かれ方をするというような考え方は、やはりきちんと最初に位置付けられておかないと、この施設の構造も何か変なことになってしまうのではないかなと思います。

こういう空間があり、それがこうなりますみたいだけではなく、もう少し強く打ち出すことができないのかなっていうようなことを思いました。

○伊藤委員

今の松井委員の話で思い出したのですが、キラリふじみの場合は、中ホールが前の池をつないだ形で外部に向かって開いていますよね。

それが本当に町に向かっていくかどうかということに対しては、前回疑問も呈されましたが、一応外部に向かっていきます。

ヨーロッパのように完全に広場を持つのは日本の場合はちょっと難しいかもしれませんが、芝生広場みたいなものが施設前にあり、催しによっては縁日みたいなものに広がっていくような空間というのはやはり必要ではないかなと思います。

私は日本の広い意味での文化施設の原型は、神社とかお寺だと思います。

その境内でお芝居をやったり、或いはお店が入ったりとかいう形のものがあって、カフェを作るのもいいと思うのですが、例えばいわゆるワゴン車とかキッチンカーが来て、バザーみたいな形で年に何回か、すべての交流ができるような、まさにお祭りの場にしていくようなことも考えたほうがいいのかと思います。

そういう意味では、交流部門と創造活動部門との壁を外せるような構造で考えていくことも必要です。

それがそのまま、例えば橋でも掛ければ、向こうにある市場とも連携できるとか、或いは船を通してなどの形のように行けるような、そういう交流広場というのもぜひ考えて欲しいなという気がしました。

○倉田委員長

ありがとうございます。

ちょうど私が言いたいことを今伊藤委員に言っていただいたような気がします。先ほど申し上げたのも、やはりゾーンでとらえて、ウォーターフロントをもう少し交流の場という捕らえ方をする必要があるのでないかということ、同時に、今たまたま建物だけの話をしていますが、その周辺の作り方によって、もう少しそこが公園的な環境で、その中にこの施設があり、なおかつその公園の外にもいろいろな文化的なものも含めた市民のアクティビティが展開できるような場所になるということが非常に大事ではないかということを感じています。

そういう意味で、今回の場合、この敷地は、先ほど見させていただいたように、ゆとりがかなりありますので。

建物だけではなく、その周辺環境をどういうふうにするかということが、結構大事ではないかなと思います。環境を生かして、特に水辺でもあるということもありますし、そういうことを上手に生か

すことによって、そこが木更津市にとっても、特別な場所になるのではないかという気がしますので、その辺の配慮というのは大事なかなというようになります。

それから、その周辺と、その建物とが、ある時は使い方によっては中と外が一体的に使えるような効果、考えも持っておくとか、これはもう設計レベルの話でできることだと思いますが、そういうことを記載するというのを設計の余条件として、ここで押さえておくことが大事ではないかなという気がします。

それと、先ほどちょっと伊藤委員から話がありましたが、交流施設をどういうふうに生かせば、交流空間になるのか、もちろん図書機能を持ってくるようなことで、自然となる部分もありますが、そうではなくて、それ以外のところもどういうふうにするかという運営体制や仕掛けなどのもう少しソフトな要素がないと、せっかくスペースを作ったけど、作っただけで使われないということになるような気がします。

実際にちょっと私自身が直接知っているということですので、茅野市民館では、やはりそういう運営側に市民のグループがいて、それからワークショップをやったりして市民を巻き込むようないろいろなことをやっています。

お祭りのようなことももちろんやっていますし、それは非常に一方ですごく大事なことで、施設そのものだけでなく、運営の仕方という点でも大事ですし、それはおそらくワンセットで考えなければいけないことではないかなというふうに思いました。

#### ○地曳委員

19 ページの最後の枠のところにも多目的ホールは現中ホールの役割を担うという記述があるのですが、毎年2月から3月にかけて、木更津税務署が確定申告の会場として中ホールを使っているという現実がございます。これは、非常に市民生活にとっては大事なことではあるとはいえ、文化創造という面と、若干、相容れないところがあるのかなというふうに私は危惧しているところですが、新しい中規模ホールの建設に向けて今現在の使い勝手についてはどういうふうに考えているのかお答えいただければと思います。

確定申告の会場で使っている状態を新しいこの中規模ホールでも、継続はされるのでしょうか。

#### ○事務局

おっしゃる通り確定申告に使っているところでございますが、中規模ホールを建てた後、どうするかは、まだ想定はしていません。

ただ、税務署管内で適切な施設がないとなると、使う必要がもしかしたらあるのではないかなと考えておりますが、決定はしてありません。

#### ○地曳委員

2月ということで、イベント等の閑散期ではあるかと思うのですが、2月の第1週から3月の第3週ぐらいまで使っているという現状がありますので、少し気にかかったため発言させていただきました。

#### ○倉田委員長

おそらく先ほど少し可動席の話がありましたが、それも、おそらく、どういう利用が想定されるかによって、変わってくるのかなというふうに思います。また、利用が想定できれば、それだけホールの利用頻度が高くなるということにも繋がっていくと思います。

いずれにしても使う当てのないところで、幾ら可動席にしても意味がないと思います。

その辺も私の経験で言うと、市民とのいろいろな議論の中で、ダンスをやられる方達が、きちんとしたダンスの大会をやりたいなどの話が結構出てきた中で、可能性の一つとして、可動席でもいいのではないかという話に落ち着いたということがありました。

ですから、やはり、ただいたずらに可動席だったらいつか使えるだろうということではなくて、こういうケースでは可動式の方が有効に使えるということをご想定する必要もあると思います。

あと少し誤解のないよう茅野市民館のお話をさせていただくと、実は茅野市民館は、多目的ホールとは別に、音楽の専用ホール300席があります。

それはやはり市民の議論の中で、音楽専用ホール、特に市民利用を想定した時に300席ぐらいの音楽専用ホールがあったほうが良いと。

そうであれば、大きなホールは多目的でいいのではないかというような議論があつて、そういうところに落ち着いたということがありますので、そういう意味では、やはりどういう利用想定をするか、どういうことを期待するかということで変わってくるのかなというふうに思います。

少しその辺、従来はこうだったからというだけじゃなくて、これからこういうふうに使いたいということも含めて、ちょっと議論が必要なのではないかという気がしました。

いかがでしょうか。

それでは、議題 5 についての議論はここで終了したいと思います。

これからも委員会は継続しますので、そこで、また皆さんに今日の議論を踏まえて、いろいろとご議論いただければと思います。では、これにて本日の議事は終了させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

#### ○事務局

皆様、長時間のご審議ありがとうございました。

最後になりますが、その他といたしまして、次回の委員会のご案内をさせていただきます。

次回第 5 回の検討委員会につきましては、11 月 12 日火曜日 14 時からの開催を予定しており、配置計画などについて、いろいろとご議論いただきたいと存じます。

開催案内につきましては、後日送付させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして、第 4 回木更津市民会館整備検討委員会を終了いたします。

皆様ありがとうございました。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和元年 11 月 12 日

木更津市市民会館整備検討委員会委員長 倉田 直道